

どう思う 議会基本条例

検証時期を感じる／町長



にしむら まさのぶ 議員 西村 将伸

四万十町で開催された高幡地区議員研修会の講演では全国に先駆けて議会のあり方を「議会基本条例」として制定した北海道・元栗山町議会事務局長・中尾修氏から議会改革への提案があった。

本年度200箇所の市町村を超える勢いで全国に波及している「議会基本条例」制定であるが、聴講した感想を問う。

答 大西町長

中山間地域と高齢化が進んだ地域を優先して、7月の鈴地区を皮切りに佐賀5地区、大方3地区で開催したが、想像以上に地域の疲弊が進んでおり、地域福祉の充実を急ぐ必要性を感じた。来年度の福祉計画の策定過程において地域懇談会の継続

住民と執行部との直接対話から行政に対する要望をつかむことを目的として始めた懇談会であるが、住民からの要望で一番多かったものは何か、また町長自身が今後の政策課題として取り組む必要性を感じたことは何か。

また町長出席のもと、先月

を予定している。

研修会での議会基本条例の制定については議会に判断を委ねるが、議会への住民参加の推進についても執行部が現在取り組んでいる地区懇談会もそうした趣旨を進めており、議会の活性化は住民利益の向上につながると考えている。ぜひ議会基本条例について議会の方で協議していただきたい。

これまでこうあるべきだと定義されていた議会と執行部のあり方について検証の時期に来ていると感じている。

産業推進室

目指す
産業振興策は
既存産業へ重点

／町長

問

下村町政が遺した産業振興に特化した「産業推進室」であるが、引き続き発展させる必要性がある。町長自身が考える「産業推進室」のあるべき姿(目標)と現状のギャッ

プについて問う。

また6月定例会において産業振興のために町の一次産品等、特産品の現状分析を急ぐとしていたが、その実態は把握できているか、町長自身が目指す産業振興策を問う。

答 大西町長

産業推進室の業務の量と人員の配置がバランスを欠いており、業務の振り分けと人員配置の適正化を図りたい。一次産品の現状分析は農産物、水産物等を含め主要加工品、生産も含め終了している。

目指す産業振興策は既存の産業へのテコ入れと、既存産業を土台に関連産業の育成に重点を置きたい。

道路整備

町道・馬荷線の
完成予定は
25年度を予定

／まちづくり課長

問

今は亡き田辺守議員が懸念

に取り組んできた中山間地域の生活道路、そのひとつ町道馬荷線。本年度も着手しているところだが、全線完成の時期は何年度の予定なのか。随時並行して県道岡本・大方線の整備を図る必要があると思うが、その施策的行動はとられているか。

答 浜田まちづくり課長

田辺議員の議事録を読んで北部の循環道路に関し非常に熱心に取り組んでおられたことが解る。係としても故人の意に沿うべく頑張りたい。この路線の完成年度は25年度を予定している。

県道岡本大方線については今年、幡多土木の方が御坊畑地区の140mの道路設計委託をかける予定となっている。中山間地域の県道整備は機会あるごとに要望している。